



静岡県立
静岡南高校

基礎学力向上

家庭学習と朝テストを 連動させ、基礎学力と 学習習慣の定着を図る

◎校訓は「自知」、生活信条は「自知、自律、自発」。駿河湾を見下ろす高台にある自然豊かな校舎で、野球、サッカー、バスケットボール、陸上などの部活動が活発に活動している。2013年度に静岡市立商業高校と統合・再編し、静岡県立駿河総合高校となる予定。

設立	1983(昭和58)年
形態	全日制／普通科／共学
生徒数	1学年約130人
12年度入試合格実績(現役のみ)	国公立大は、静岡大に2人が合格。私立大は、工学院大、東海大、日本大、神奈川大などに延べ39人が合格。短大は11人、専門学校には60人が合格。就職は、一般企業42人、公務員1人。
住所	〒422-8017 静岡県静岡市駿河区大谷5762
電話	054-237-5781
Web Site	http://www.edu.pref.shizuoka.jp/shizuokaminami-h/home.nsf

変革のステップ

背景	実践	成果
<p>◎生徒指導の徹底と部活動の活性化により、生徒の荒れは収まったが、学力向上が課題となる</p> <p>STEP 1</p>	<p>◎「^{にびー}2Pノート」と朝テストによる基礎学力の定着と学習習慣づくり、表現力育成教材による表現力などの向上を図る</p> <p>STEP 2</p>	<p>◎家庭学習習慣の定着と共に、下位層を中心に学力が上向くようになる。表現する力も向上</p> <p>STEP 3</p>

生徒指導の徹底と部活動の活性化で「荒れ」を収める

「10年前と比べたら別の学校のようにになりました」

進路課長の菊地和彦先生は、過去10年間の静岡県立静岡南高校の変化を振り返り、このように語る。菊地先生が赴任した頃、同校は生徒の「荒れ」に悩まされていた。容儀は乱れ、問題行動も多く、定員割れは恒常化していた。中退者も少なくなかったという。

「今は入学定員も充足し、特別に手厚い指導を必要とするような生徒はほとんどいません。生徒の基礎学力も高まり、高校入試の合格最低ラインも上がりました」(菊地先生)

改革は7年前、生徒指導のでこ入れから始まった。校則違反者にチケットを渡し、その枚数に応じて、担任、学年主任、生徒課長、教頭、校長の順に指導が入り、累積12枚で自宅謹慎という措置が取られた。また、スポーツ推薦入試の募集定員を増やし、部活動の活性化を図った。これにより、グラウンドや体育館に活気が生まれ、県大会に出場する部も現れた。更に、管理職が地元の中学校を訪問し、生徒指導の成果や学校の魅力をアピールすることで、受験倍率は徐々に上向いていった。

生徒指導の徹底と部活動の活性化により、荒れは徐々に収まっていった。学校が落ち着き

取り戻した頃、次の課題として浮かび上がったのが、基礎学力の向上だった。

体力面の向上は 学びの姿勢や意欲につながる

きっかけは、体育科からの声掛けだった。保健・体育科で3学年主任の高田晋松先生が赴任する数年前、同校は体力向上に力を入れ始めた。その結果、校内が荒れていた頃には県内で100位以下だった体力テストでは、数年で男女とも10位以内に入るようになった。

「体力テストの成績は、先生方が生徒指導で努力を重ねてきた結果、生徒が教師の指導を受け入れるようになったからこそ生まれた



静岡県立静岡南高校(2012年4月から静岡県立三島南高校に勤務)
菊地和彦 きくち・かずひこ
教職歴24年。同校に赴任して10年目。進路課長。「前例や慣習にとらわれず、柔軟に対応したい」



静岡県立静岡南高校
高田晋松 たかだ・しんまつ
教職歴18年。同校に赴任して4年目。3学年主任。「学年主任として、先生や生徒が力を出し切れるようにコーディネートしていきたい」



静岡県立静岡南高校
西川聖美 にしかわ・きよみ
教職歴26年。同校に赴任して8年目。2学年主任。「他者を思いやる優しき、困難に立ち向かうたくましさを持つ生徒を育てたい」

成果です。この体力面の向上は、身体的な充実をもたらすだけにとどまりません。健やかな精神や身体で生活することは、学習へ向かう姿勢や意欲にもつながると思います。体力の向上を土台として、学力を高めていけると考えました」(高田先生)

基礎学力を高めるために生徒に合った方法はないか話し合った末、2009年度に全学年で始めたのが「2Pノート」だ(写真)。学校がB5判ノートを支給し、平日は2ページ分以上、土日は4ページ以上の家庭学習を課し、翌日、担任にノートを提出させるという取り組みだ。生徒1人当たり年間8冊を目標とし、進路指導室に3000冊の新しいノートを用意した。こ

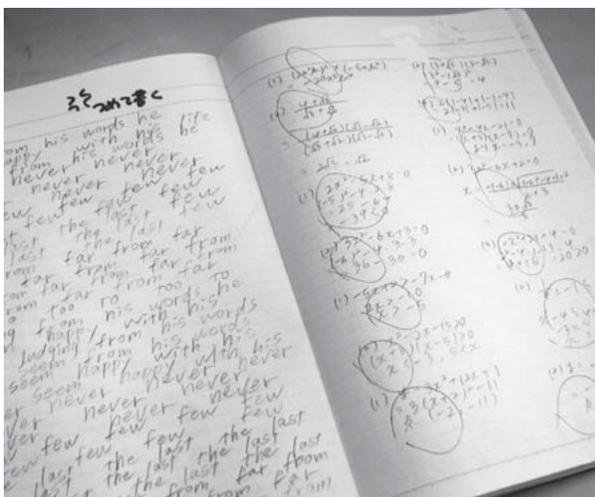


写真 英語と数学の学習をした「2Pノート」。途中式などでスペースを取る数学のような教科は、平日でも4ページを必須としている

のノートを保管するロッカーの扉には、生徒一人ひとりがノートを受け取った日付を記録する一覧表が貼られている。何冊目かがひと目で分かり、生徒には大きな励みになる。1年で10冊以上を使いきる生徒もいるという。

頑張った生徒の表彰が 意欲と互いを認め合う雰囲気を育む

2Pノートの重要な目的の1つは、家庭学習習慣の定着だ。高校入学段階で家庭学習習慣が身に付いていない生徒が多いため、家庭学習の方法を伝え、「机の前に座り、自宅で勉強する」という習慣を体得させる必要があった。そこで、4月のガイダンスで家庭学習の進め方を伝えた上で、2Pノートに取り組ませるようにした。

ノートは毎日担任に提出させ、担任はその日のうちにチェックして返却する。優秀者を表彰し、努力をたたえる機会を設け、生徒のモチベーションを維持した。提出していない生徒は放課後に残してでも取り組ませ、必ずその日のうちに2ページ分を終わらせるように指導した。2学年主任の西川聖美先生は言う。

「表彰により、生徒の意欲が高まると共に、頑張っている友だちを認める雰囲気も生まれました。部活動で活躍する生徒、2Pノートで頑張る生徒、それぞれが認め合うことで切磋琢磨する雰囲気がつくりたいと思います」

*プロフィールは2012年3月時点のものです

2Pノートによる家庭学習習慣の定着は、確実に進んでいる。看護の専門学校に進学した卒業生からは、「看護の勉強は大変だけれど、2Pノートで学習習慣が身に付いていたので授業についていける」という声が寄せられた。卒業後も、2Pノートを続けている者もいるという。生徒自身が効果を実感し、自立的な学びを実現していることは、保護者にも大きな喜びとなっている。「うちの子が、毎日机に向かって勉強をしています」といった、保護者からの驚きと感謝の声が学校に届けられているという。

「家で学習していなかった生徒でも、教師がある程度の形まで導くことで、家庭学習習慣が身に付くことを、2Pノートを通して証明できました。生徒の学力向上に成果が出たのはもちろん、我々教師にとっても大きな自信になりました」(高田先生)

朝テストで2Pノートへのモチベーションを高める

2Pノートの学習内容は基本的に生徒に任されているが、学年によっては特定のテーマに沿って課題を出すこともある。例えば、2年生では読解力や表現力を付けるため、週末は新聞記事を活用した課題とした。新聞の社説などの文章の書き写し、用語調べ、感想と要約、タイトルを付けるといった内容だ。

現在、多くの生徒が取り組むのが「朝テスト」対策だ。2Pノートが軌道に乗り、生徒に学習習慣が付いてきた10年度に始められたものだ。

「朝テストは、より目的意識を持って家庭学習に取り組んでもらうために始めました。生徒は、朝テストで高得点を取りたいと頑張る。朝テストで良い点が取れて学習内容が定着し、更に次の学習意欲につながるという好循環が生まれることを期待しました」(高田先生)

朝テストは、国語、数学、英語の基礎問題が中心だ。ただし、3年生は就職試験に向けた一般常識問題というように、学年や時期に応じてテーマを変えている。11年度の1年生1学期には、生徒が苦手な英語の不規則動詞だけで朝テストを続けて行った。実施するのは月曜、火曜、水曜だ。週末に部活動の試合が多いため、負荷を考慮し、木曜、金曜は朝読書とした。

問題は初級・中級・上級と3種類あり、月曜に初級に合格したら火曜は中級、それも合格したら水曜に上級を受ける。合格しなければ、合格するまで同じ級の問題を水曜まで受け続ける。同時に3つのレベルのテストを行うため、テスト用紙にも工夫を凝らした。A3判の用紙に初級3つ、中級2つ、上級1つのテスト問題を印刷し折り畳んで使う(図)。

12年度はこの方式を変え、朝テストの週、朝読書の週と、週替わりとする予定だ。昨年まで

3年生の「朝テスト」表面

朝テスト できる!わかる!

テーマ !英語で口語表現!

HRNO	NAME
初級①	中級②
初級②	中級③
初級③	中級④
初級④	中級⑤

※名前を記入する(各欄の場合は○で囲む)！大文字は次は記入

問題 次の口語表現を日本語にしない。

初級①	点	中級①	点	初級②
(1) Good morning.		(1) Who is it?		(1) Good morning.
(2) My name is Satoshi.		(2) This is Yamada speaking.		(2) My name is Satoshi.
(3) I'm glad to see you.		(3) You have the wrong number.		(3) I'm glad to see you.
(4) Are you ready?		(4) May I leave a message to Mr.		(4) Are you ready?
(5) I am about to leave.		(5) Hold on please.		(5) I am about to leave.
(6) What's the matter with you?		(6) You are wanted on the phone, Mr.		(6) What's the matter with you?
(7) That sounds great.		(7) He's on another line, right now.		(7) That sounds great!

表面には初級、中級、初級、裏面には初級、中級、上級の問題を載せ、1週間分の問題をプリント1枚にまとめている。3つ折りにして使う
*学校資料を一部加工の上、掲載

の総括から、朝テストが週3日では中途半端で、学習内容が思うように定着しなかったため、年度ごとに、取り組みの効果の検証や指導法の見直しを行い、改善を図ることも、取り組みを形骸化させないために必要だと考えている。

成績下位層への指導を手厚くし 学校全体の学力を底上げ

07年度には、学力の状況を把握するためにベネッセの「実力診断テスト」(*1)を導入した。11年度の3年生は、このテストを学力向上策としても活用してきた。徹底したのはテスト前の

*1 ベネッセの「進路マップ」の教材の1つで、1・2年生を対象にした記述式テスト。幅広い学力層に対応する出題内容となっている
*2 生徒の学力到達度を<S>~<D>のゾーンで示す、ベネッセの学力指標。D3は、「基礎・基本養成レベル」を指す
*3 ベネッセの「進路マップ」の教材の1つで、進路について考えを深めることが出来るワークシート

補習だ。教科ごとに前回のテストでD3(*2)だった生徒に対して補習を行い、基礎学力がいかに大切かを説明して励ました。そして、教科ごとにテストの重要ポイントの解説と演習を行い、実戦力を高めた。

「成績下位層の生徒を徹底的に鍛え上げ、学校全体の学力の底上げを図りたいと考えました。その分、成績上位層には物足りない思いをさせているかもしれません。今後は、下位層の学力を底上げしつつ、上位層の学力を引き上げたいと考えています」(菊地先生)

実力診断テストは学年を追うごとに出题範囲が広くなるため、日々の学習により学習内容が定着していなければD3の生徒が増える。ところが、この学年では、D3は増えず、「国公立大・中堅私立大可能レベル」のBゾーンの生徒が若干増加した。

「この学年は、1日の家庭学習の平均時間が2Pノートの時間も含めて、1年生の時は100分でしたが、3年生では140分まで伸びました。2Pノートを交換日記のように使って生徒と担任が交流したり、テスト前の補習をこまめに行ったりして、教師が徹底的に手を掛けたことが、家庭学習習慣の定着に結び付いたのだと思います」(西川先生)

生徒の頑張りにより教師が応えることで学年全体の意欲も更に高まるという好循環が生まれ、生徒の学力向上と学習習慣の定着を促している。

最後の卒業生として 有終の美を飾らせた

就職希望者も多い同校では、コミュニケーション能力や表現力の育成にも力を入れている。技術力や資格取得という面では、専門高校に勝ることは難しい。その分、基礎学力と、社会を生き抜くために不可欠なコミュニケーション能力などを高めようと考えているのだ。

「若者のコミュニケーション能力の低下は、どの企業も痛切に感じていると聞いています。生徒が希望の就職を実現させ、その後も社会で活躍できるように、コミュニケーション能力や表現力を高めることも重要だと捉えています。本校は3年間のキャリア教育の計画を立てており、学習とキャリア教育を両輪で進めることを大切にしています」(菊地先生)

生徒には、2Pノートをもらう時に生徒番号と名前を言うように指導している。こうした日常生活での意識付けに加え、コミュニケーション能力や表現力を体系的に高めるために、「総合的な学習の時間」でベネッセの教材を活用している。1年生では「高校生のキャリアワーク」(*3)を用いて、「好き嫌いから見える自分」過去・現在・未来の自分」などの課題に取り組み、2年生では「表現サポート」(*4)を用いて、コミュニケーション方法や表現方法を学ぶ。3年生では大学や就職の志望理由を考えさせ、進

路実現へ結実させる。

「総合的な学習の時間」の集大成となるのは、3年生での卒業研究だ。研究テーマは自由で、趣味や好きなこと、進学先で学ぶ内容、就職先の企業の紹介でも構わない。2学期を通して取り組み、12月にクラスで1人1〜2分間で発表する。11年度の3年生では、各クラスで選ばれた代表5人が学年集会で発表した。

「2学期には進路が決まる3年生も多いので、学習意欲を維持させるために卒業研究に取り組みせました。会社でどのように働くのか、進学先で何を勉強するのかを考えるきっかけとし、皆の前で発表することで表現力やコミュニケーション能力を少しでも高めてほしいと考えました。その内容からは、生徒が調べる力と表現する力をしっかり身に付けている様子が伝わってきました」(高田先生)

同校は、13年度に静岡市立商業高校と統合・再編し、静岡県立駿河総合高校として再スタートする。最後の卒業生となる2年生の学年主任を務める西川先生は次のように語る。

「今後の課題は、成績上位層を引き上げつつ、成績下位層の生徒の進路実現を図ることです。そして、本校の校訓と生活信条をしっかり身に付けて社会に送り出すのが目標です。進路実現に向かって努力し、静岡南高校の最後の生徒として、誇りを持って卒業してほしいと思います」

今回のテーマに関連する過去の記事はBenesse教育研究開発センターのウェブサイトでご覧いただけます。

2010年12月号指導変革の軌跡「兵庫県・私立日生学園第三高校」など

▶▶▶ <http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ(高校向け)